



Kふぁーむ 体験学習 プログラム

2月11日と13日に本宮市や郡山市の子どもたち47名がKふぁーむを訪れ、食育や障害に関する理解を深めることのできる体験学習プログラムに参加しました。今回の取組は独立行政法人国立青少年教育振興機構「子ども夢基金助成活動」の採択を受けた「共生事業を展開する農場での子どもの育成プログラム」の一環であります。今号では元気いっぱい参加してくれた子どもたちの様子や感想を特集します。

① Kふぁーむってどんなところ？

どんな人が働いているの？



Kふぁーむの話を知りました。40年前は競馬馬の保養所だったそうです。今は老人施設や障害者施設、動物の住む牧場、野菜を作る農場やレストランもあるそうです。農場では障害をお持ちのかたが自分の得意なことをいかして活躍していると話を聞きました。みんなが頑張って作った野菜やきれいに洗ったニワトリのたまごをレストランでお客さんに食べてもらっていて、そのおいしい料理を食べたお客さんがみんな笑顔になってくれるという話を聞いた時には、とてもうれしい気持ちになりました。

Kふぁーむは東京ドーム3つ分の広さがあるそうです。たくさんの種類の動物がいて歩くだけでとても楽しかったです。ブタやニワトリの健康を一番に考えた特別の育て方をしているという話を聞いた時には、だからおいしいお肉やたまごができるんだなと思いました。

たまご洗いをしました。食べ物には命があるという話を聞いたので大切に洗いました。洗う仕事はとても大変でしたが、この洗ったたまごを食べてくれた人がおいしいと思ってくれたらとてもうれしいです。これからは家で食べるたまごも大切に食べたいと思います。

② 農場探検とお仕事体験をしました！



③ みんなでお菓子作りに挑戦しました！



Kふぁーむのネラのたまごを使ってフォンダンショコラを作りました。大きなたまごを割ったら双子の黄身が出てきました。はじめてのことだったのでとてもびっくりしました。ケーキはとてもあまくておいしかったです。いただきますという言葉の意味を考えながら食べましょうという話を聞いて、自分で大切に洗ったたまごのことやKふぁーむで見たニワトリが頑張って産んでいるという話を思い出してみると、もっとおいしく感じました。

Kふぁーむのこだわりでもある「食」に関する様々な体験を通して、食育や障害について体系的に学ぶことで、食卓に並ぶ食材にはそれぞれ命があること。食卓に並ぶまでに様々な人の手に関わり自分とつながっていること。食べるということは生きるということ。そういった学びとの出会いの中から「いただきます」「ごちそうさま」という言葉の意味を子どもたちひとりひとりが正しく感じ、理解することが出来る取組となりました。

Kふぁーむではつながりや幸せを感じるきっかけを発信しております。
今後もKふぁーむを訪れる沢山の方々が笑顔になれる取組を行なって参ります。
共生事業に関するお問合せは共生事業チルコロ事務局 080-2801-0412 までお気軽にお問合せください。